

天声人语07年8月15日 PDF转换可能丢失图片或格式，建议阅读原文

https://www.100test.com/kao_ti2020/251/2021_2022__E5_A4_A9_E5_A3_B0_E4_BA_BA_E8_c105_251871.htm 争への反省 昭和と切っても切れない人だからか。夏のきわみに、この春死去した城山三郎さんをめぐる本の出版が相次いでいる。17で入った「」が残した痕から出し、生涯をかけて争を追究した作家である。难道是与昭和剪也剪不断的人么？夏末之际，与今年春天去世的城山三郎先生有关的书籍接二连三出版。他以17岁入“武”所留下的伤痕为出发点，是一名耗费一生追究战争的作家。亡くなる前年にお会いしたとき、特攻のになった。争末期に「花」という特攻があった。着するさえなく、体当たりだけを目的に作られた兵器である。あるとき米国の航空博物で、城山さんは物をる。あまりにも狭い操席に、胸をしめつけられた。在城山先生去世的前一年拜见他的时候，我们聊了关于特攻的话题。战争末期，有一种名为“樱花”的特攻机（指飞机，译者注）。这是一种着陆时连滑轮也没有，仅仅是以自灭方式攻击对方为目的所制作的武器。有一次，在美国航空博物馆，城山先生目睹了实物。胸口被紧紧卡在狭窄得不能再狭窄的操纵席上。若者が身体を折りかがめ、兵器の一部となっていって行く。悲的な姿がに迫った。人格などみられず、人が消耗品いされた代を痛感したという。死んでいった兵への惜をり、「行かせた者はせない」と目をしばたかせていた。年轻人们弯腰折身，作为武器的一部分编成而往。悲剧性的身姿印入脑海。据说，不顾人格种种，把人当作消耗品来使用的那个

年代令城山先生倍感痛心。他诉说着对已经死去的士兵的爱惜，眨巴着眼说道，“决不饶恕那些让士兵去送死的人”。そして、城山さんのいない8月15日が巡る。人命を水のようににつぎんだ指の任を、城山さんのようにう中派もいる。横浜の田さん（84）は、南方での死、病死のありさまをき残そうと、と争のをめる。再来回顾一下城山先生已然不在人世的8月15日。同样还有像城山先生那样的战中派，质问那些把人送上水深火热般战场的统治者的责任。横浜的饭田进先生（84岁）为了写下（士兵在）南方（应该指新加坡、马来西亚这样的地方吧，译者注）饿死、病死的情况而与时间赛跑，笔耕不断。自らも死をさまよった。部は拙劣な作をり返し、もなく、おびたらしい兵を野たれ死にさせた。その任に目をつぶって、惨めな死者を「英」と呼べば、争の相をすと思うからだ。他自己也在生死线上徘徊。军方不断做出蹩脚的作战方案，没有补给，大批大批的士兵死在路边。因为（他们）觉得，如果对于这样的责任视而不见，还把惨烈的战死者成为“英灵”，就能隐埋战争的真相。この夏の、城山さんをめぐると、若いころの本人のがあった。争を、暖い生命を秤（はかりうり）するものだと突いている。骨の作家のがこえてくるような、62年目の蝉（せみ）雨（しぐれ）である。在这个夏天，以城山先生为主题的一本书里，有一首他本人年轻时候的诗。他这样抨击着战争，“秤斤论量生生卖性命”。这是一个仿佛令人听到铁骨作家之遗训的第62个百蝉起鸣时。100Test 下载频道开通，各类考试题目直接下载。详细请访问

www.100test.com